

子どもの視力障害について

今月のテーマ



谷口 徹 氏
関市 谷口眼科院長

今月の先生紹介

今回は子どもの視力障害についていくつかピックアップして解説します。

弱視: 最も注意すべきもの
「弱視」とは、視力の成長が幼少期に止まった状態のことです。メガネをかけても良好な視力が得られません。弱視の治療は、小学校低学年までに行わないと、一生、低視力のままとなってしまう可能性があります。したがって、早期診断、早期治療が重要です。片目が弱視でも、他眼が見えていれば、本人も家族も気づきません。3歳児検診などでの視力検査も、片目ずつ確実にを行うことが極めて重要です。

生まれたばかりの赤ちゃんの視力は、明るい暗いばかりの程度です。生後1カ月くらいで物の形がわかるようになり、4カ月くらいで動くものを追うようになり、その後だんだん視力が発達して、小学校入学前までに、おとなと同じくらいの視力に成長するのです。この視力発達に必要な条件が、毎日ピントが合った



ものを見ることです。この条件が妨げられれば、視力が発達せず、弱視になります。弱視の代表的原因に「遠視」があります。
遠視とは、生まれつき、遠くからきた光が網膜(カメラのフィルムに相当)よりも後ろにピントが合う目のことで、遠くの物にも近くの物にもピントが合わないため、視力発達が障害されます。他の弱視の原因に、斜視(物を見ようとする時に、片目は正面を向いていても、もう片目が違う方向を向いている状態)や、乳幼児期の眼帯の使用があります。たった数日の眼帯使用でも弱視になることがありますので、乳幼児期には絶対眼帯をしないようにしてください(ただし弱視の治療として、良い方の目に眼帯をすることがあります)。

近視

「近視(近眼)」とは、遠くからきた光が網膜よりも前にピントが合う目のことで、遠くの物はぼやけて見えませんが、近くの物にはピントが合うので近くの物にははっきり見えません。子どもで最も多い視力低下の原因は、この近視です。現代生活では、近くを見る機会が多いため、近くにピントが合った状態である近視になりやすいのです。近視には、勉強、読書、テレビ、パソコン、ゲームなど近くを長時間見るといった環境要因と、親が近視であるという遺伝的要因が関係すると考えられています。黒板の字が見えにくいというように不都合が生じてきたら、メガネをかけてください。また、メガネを常にかける必要はなく、黒板や遠くを見る時など必要に応じてかければよいのです。ただし斜視を伴う場合は、メガネを必ずかける必要がある場合があります。メガネをかけたらずしりしても、近視が進むようなことはありません。

心因性視力障害

学校や家庭での心理的ストレスによって、からだのさまざまな所に障害がでることがあります。頭痛や腹痛などの他、視力低下もその一つです。これが心因性の視力障害です。心因性の視力障害では、目に異常はなく、またメガネをかけても視力が良くなりません。治療はそのストレスを取り除くことですが、原因が必ずしもはっきりしないことがあります。



目は人間にとって重要な感覚器官です。目の健康にも気を付け、快適な日常生活を送りましょう。

「エコ」と「せこ」は紙一重

「エコ」なのか「せこ(い)」なのか、はたまたグッドアイデアというべきか…線引きが難しいですね。

組合員さんのおしゃべり場



●子どもがよくズボンの膝を破いてくるのであて布をして、あて布をして、あて布をして…と、「もーいいんじゃない?」と母に止められるまでズボンをはかせてしまいます。
(下呂市 温かい風さん)

●4才の息子の後にトイレに入り、一緒に流すことが時々…。
(岐阜市 まるれさん)

●納豆のパックの蓋を、マグカップにお茶を入れた時の蓋に使います。お茶が冷めにくくて、軽くて扱い易くて良いですよ。
(大垣市 ちーもさん)

●おじいちゃんは決してお金に苦労してないはずなのに、使用済みラップを洗ってから干し、再利用する習慣がほほ笑ましくもありません。
(可児市 さゆなおままさん)

●ドレッシング、最後に酢を入れてゆすいでサラダにかけてます。なんか酸っぱくない? といわれても知らんぷり。
(大垣市 Yukkoさん)

●使ったティッシュを乾いてからもう一度使う。ドイツに住んでいたとき、ドイツのティッシュはすごく分厚くて、ドイツの方は再利用するのが当たり前で、ドイツ人の方ですよ。
(岐阜市 けごんさん)

●洗いを減らすために、コップを一回使っただけでは洗わない。(北方町 くみグミさん)

●旦那はエコなのか分かりませんが、ものを大事にします。インナーは上げていてやぶれている箇所もあるのですが、人には分からないからと着続けています。そこまで着たら買い換えてもいいと思うのですが。
(北方町 りさん)

●歯磨き粉は最後の方になるとチューブをはさみで切ったその中にハブラシを突っ込んで使っていました。主人に「貧乏くさいのでやめて」と言われてやめました。
(土岐市 チャココさん)

●子どもの残り物は全て母の腹の中へふとる!!
(高山市 ハルルンママさん)

●マスクのゴムをとって置き、ピンチハンガーのピンチの留め具が壊れた時に使ったり、何本か編んでヘアゴムにしたり等して使います。ちょっとしたことなので便利ですよ。
(各務原市 あいびいさん)

●過剰包装だと思いつつ、かわいいお菓子の箱や包装紙が何かの役に立つかも? とっておきますが、役に立つことはほぼありません。捨てなきゃ!! (高山市 はのままさん)

●タダでもらえるものは必ずもらいます。開店の日には必ず行きます。試食ばかりして、買いません。無料のバス旅行に行つて、お土産は買いません。
(関市 さくらさん)

発信往来

はっしんおうらい

●子どもの大学受験が終わり、親子共々ほっと息というところですが、第一志望の大学には合格できませんでしたが、本人は、この大学で優秀な成績がとれるよう頑張ると言っています。残念な結果にくさることなく、頼もしい言葉を聞けて、親としては嬉しい限りです。(岐南町 みるきーさん)

●父が入院した為、主人と二人で畑仕事をしました。初心者二人で草取り、耕運機、畝を作り野菜の苗を植えました。日頃畑から当たり前に出た野菜を取ってくるだけでしたが、こんなに苦労して作ってくれていたのだと改めて父に感謝です。今年の夏は私達が作った野菜をお父さんに食べて頂くとうと頑張っています。
(美濃加茂市 ちろくんさん)

●大洞の光輪公園を散歩していたら「ハンニョウ」がいました。ハンニョウはピロッド状で橙色の模様のあるとても美しい昆虫です。私が近づくと2〜3メートル先に飛んでいき、また近づくと、2〜3メートル先に飛びます。あたたかも、私の道案内をしているようです。
(岐阜市 仲井さん)

